

第 I 章 現況調査

第 I 章 現況調査

1. 調査の背景

忠犬ハチ公の故郷であり、木材と鋳・工業により発展してきた大館市であるが、基幹産業の衰退とともに人口の減少が続いている。

特に大町地区を核とする中心市街地は、近年の郊外型大規模店舗の進出によって従来の商業の中心地とは言い難く、シンボリック的存在であった老舗百貨店の倒産・廃業によって空き店舗の増加に拍車がかかっている。また、地区内には下駄履き住宅を含む市営住宅4団地 104 戸があり、大火の復興策として地区に賑わいと居住の場を提供してきたものの、老朽化が進展し建て替えの時期を迎えている。

このようなことから、大規模空き店舗のコンバージョンを含めた利活用方法と市営住宅の建て替えを一体的に捉え、これを契機とした街なか再生と街なか居住を誘導することにより、中心市街地全体に元気を取り戻すことが求められている。

2. 調査の目的

本調査は、旧来からの中心地商業地である大町地区とその周辺を「歩いて暮らせるコンパクトシティ」として再生し、中心市街地としてのにぎわいを取り戻すため、地元関係者との意見交換を行いながら「生活拠点づくり、地域拠点づくり」を実現するための基本方針及び基本計画を作成し、街なか居住を事業化するための具体化プランの提案を行うことを目的とする。

3. 調査の手順

